

— The Future of Health care —
**ヘルスケアの
未来**



新聞やテレビ、インターネットなどのコンテンツを見ていると
「健康」や「病気」が今や日本人最大の関心事になったかのような印象を受けます。

国連の調査によれば、2010年の日本人の平均年齢は44.7歳。

1980年の32.6歳から、30年間で12歳も歳を取っています。

「高齢者の増加」だけでなく、こうした国民全体の「高年齢化」も
健康への関心を否が応でも高めているように思います。

今号は、誰もが気になる健康にかかわる、「ヘルスケア業界」を特集します。

日本の医療は「世界一」との評価もある一方、医師や看護師不足、地域差、

医療費の財源不足といった問題が頻繁に報道されています。

そんな日本のヘルスケアは、今後どのような方向に進んでいくのか。

未来の医療職には、どのような資質が求められるのか。

高校の医療系進路指導は、どのような観点で行えばよいのか。

各分野の専門家への取材を通して、それらを明らかにしつつ、
併せて、ヘルスケア業界の最前線で働く10人の仕事ぶりもレポートします。

今、医療系分野に進学する生徒が増えています。

生徒一人ひとりの幸福な人生と、未来社会のあるべき姿を考えたとき、

高校はどんな進路指導をすべきか。

それを考えるうえで、この特集を参考にしていただけただけなら幸いです。



◆ chapter.1

ヘルスケア業界の現状と未来

◆ chapter.2

医療職に求められる資質

◆ chapter.3

医療系進路指導のポイント

◆ chapter.4

日本のヘルスケアを支える人たち

医師 (NICU医)、開業医、医師 (公衆衛生医)、看護師、
歯科医師 (摂食・嚥下専門)、薬剤師 (訪問薬剤師)、
臨床工学技士、理学療法士、研究者 (iPS細胞研究)、起業家

